

士別市水道事業経営戦略（案）に対する パブリックコメントの実施結果

士別市水道事業経営戦略（案）について、士別市パブリックコメント制度実施要綱に基づき市民に意見を募集したところ、2名の方からご意見をいただきました。寄せられたご意見の内容及びご意見に対する考え方を次おり公表します。

1 パブリックコメントの実施状況

- (1) 募集期間 令和4年9月30日（金）から令和4年10月31日（月）
- (2) 意見提出者数 2名
- (3) 提出方法 直接持参1件、メール1件
- (4) 担当部署 建設水道部都市マネジメント課

No.	寄せられた意見の概要	水道事業の考え方
1	<p>北海道内の類似規模市町の水道料金の平均値以下の水道料金を将来にわたって実施してほしい。</p> <p>理由は、士別市は市民が『住みやすいまち』と思っていることでは、北海道の中でもかなり上位にいますが、その『住みやすい』ことの条件のうち、欠かすことのできないものの一つが、水道料金の水準だと思うからです。もし、値上げの原因が水道施設の構造と現状にあるのであれば、計画的に改修改善し、その費用負担は、可能なものは国にもとめ、料金的大幅上昇を避けるためには、一般会計からの繰入も行って良いと考えます。また、原因が制度（公営企業会計など）にあるのであれば、制度の改正をもとめていく。それが実現できないのであれば、制度から離脱することも検討するべきだと考えます。</p>	<p>・料金改定の要因</p> <p>水道料金は、地域によって差があり、士別市は行政面積が広いことや寒冷地のため配水管が凍らないように比較的地中深くに埋設しなければならないことなどにより、費用が多くかかっている状況となっています。</p> <p>士別市の水道事業は、平成22年度の決算から収益的収入を収益的費用が上回る「赤字経営」となっており、収支均衡をはかるために、平成30年と令和4年の2回に分けて段階的に料金改定を行いました。</p> <p>・費用負担の状況</p> <p>水道施設の改修の際には、国の交付金の活用に努めています。その状況は、経営戦略17ページの「建設改良費の財源の比率」のグラフのとおりですが、国の補助金の交付率が低い現状にあります。国に対しては、水道事業の厳しい経営状況を踏まえて、地方財政措置の拡充や操出基準の緩和などを要望しており、今後においても継続して要望活動に取り組みます。</p>

		<p>また、一般会計からの繰入のあり方については、協議を進めているところです。</p> <p>・公営企業の制度について 水道事業は地方公営企業法に基づき、公営企業会計を適用しなければなりません。公営企業会計は一般会計（官庁会計）と異なり、複式簿記や発生主義を採用しており、民間企業に近い方式となっています。</p> <p>士別市の水道事業は、平成 22 年に士別簡易水道・朝日簡易水道と統合し、一つの水道事業になりました。給水人口が 5,000 人を超える事業が上水道事業、5,000 人以下の事業が簡易水道事業となるため、現在は上水道事業として運営しています。</p> <p>事業統合したことで、遠隔監視システムによる一体的な施設管理や会計処理の効率化が図られており、統合した事業の分割はできません。</p>
2	<p>水道事業に係る用語について、計画策定時より巻末に用語説明が付記されており、市民にわかりやすいものを作ろうとされているところですが、今回、作成更新したグラフに使っている用語が、本文の用語と整っていないものがあり、混乱しますので整理が必要だと思います。</p> <p>例. 9 ページ（本文）水需要（グラフ）年間配水量 26 ページ（本文）給水収益、料金（グラフ）給水原価</p> <p>いずれも同じものではないとは思いますが、同じページの本文とグラフに用いられているものなので例示しました。</p>	<p>9 頁の「水需要」と「年間配水量」は改定前から使用している用語ですが、混乱するという事なので、年間配水量を巻末の用語説明に追記しました。</p> <p>26 ページは、「給水収益」という言葉が一般的ではないため「料金収入」に変更しました。</p>
3	<p>グラフについて、年度表記 西暦（元号）が整っていないものがあり、整理が必要だと思います。</p>	<p>すべてのグラフに西暦と元号を表記しました。</p>
4	<p>誤り</p>	<p>13 ページのグラフタイトルと 26 ペー</p>

	<p>① 13 ページグラフタイトル 排水管 →配水管</p> <p>② 26 ページグラフ料金回収率の推移 において、推計値が令和 10 年度 11 年度 分の記載もあり、計画期間をこえています。</p>	<p>ジのグラフを訂正しました。</p>
5	<p>士別市水道事業経営戦略改定【概要版】 において、3. 経営の状況と今後の見通し のうち料金収入の見通しのグラフに関する 分析において、令和 4 年度の料金改定 に関し「当初計画より改定率が小さいこと で計画に比べ減少する」との記載があるが、 当初計画に改定率の決定など改定経過から はまったくの事実誤認ではないか。削除を 求めます。</p>	<p>概要版の「3. 経営の状況と今後の見通し」 は、財政計画の当初計画と改定後の数値の 違いを説明しており、料金収入の見通し では、改定後が当初計画を下回って推移 しています。</p> <p>料金収入が当初計画を下回って推移して いるのは、有収水量が減少している影響 がありますが、大きな要因として、当初 計画作成の際に改定率を高め設定してい たことが影響していると分析しています。</p>
6	<p>今回の見直しによって設定された重要 業績評価指標 (KPI) について、その目標 値が計画期間最終年度である令和 9 年度 ではなく、その 1 年前である令和 8 年度 末となっている理由を教えてください。</p>	<p>水道事業の経営戦略は、この経営戦略 期間が終了した後に新たな経営戦略を策 定することになります。令和 9 年度は新 たな経営戦略を策定する年度となる予定 をしており、その際に現行の経営戦略の 総括をする必要があるため、計画期間よ り 1 年早い令和 8 年度末を目標値の年度 としています。</p>
7	<p>「年度末運転資本」について、経営基盤 の確立を評価する指標の 1 番に設定して いる点について理由を教えてください。 いわゆる見直し前の計画では「内部留保 資金」というものだと思いますが、同じく 見直し前の財政計画推計では「資金残高」 とされていたものが、見直し後は「運 転資本」とされています。</p> <p>また、KPI の説明で不良債務との関係が 記載されておりますが、流動資産と流動 負債による不良債務の発生有無に対し、 運転資本がどう影響するのか、1 億円と いう金額についてもあわせて説明をお願</p>	<p>KPI の記載の順番には特に意味はあり ません。</p> <p>見直し前の財政計画推計では「資金残 高」としていましたが、キャッシュ・フ ローの資金期末残高と混同しやすいた め、「運転資本」に名称を変更しましたが、 数値の内容については変更ありません。運 転資本の算定は、流動資産から建設改良 企業債を除いた流動負債と固定負債のそ 他企業債を差し引くことで算定でき、 留保資金の算定結果と合致します。</p> <p>KPI の年度末運転資本の目標値を 1 億 円としているのは、改定後の財政計画の</p>

	<p>いします。</p> <p>26 ページ財政推計では令和9年度運転資本は76,317千円、KPIの目標値年度の令和8年度ではその額を上回っているが、経営戦略期間最終年度においては1億円を下回っている。計画期間内の対応方を明示すべきではないでしょうか。</p>	<p>当該数値が1億645万円なので、財政計画が予定どおり進捗しているか判断するため1億円としました。</p> <p>令和9年度末の運転資本は1億円を下回っており、財源確保については継続して検討すべき課題と認識しています。</p>									
8	<p>「料金回収率」について、旧簡水地区の収支不足分を法定外繰入としている士別において、令和3年度末実績75.78%が、目標値である93%と見通せる理由をお知らせください。もし料金改定の結果、旧簡水地区分の繰入が減少するというのであれば、敷設替え分の繰入は検討されているのでしょうか。</p> <p>また、26ページ(1)財源について、給水収益(料金)に関する説明本文の関連資料として料金回収率の推移グラフがありますが、費用が影響する供給単価やそれを用いて計算される料金回収率のグラフは、ふさわしくないと思います。</p>	<p>料金回収率は、「料金収入」と「経常支出から長期前受金戻入と受託工事収入を差し引いた額」の割合で算定することができ、財政計画のとおり進捗した場合、93.6%になります。</p> <p>旧簡水地区分の繰入金は、令和3年度決算で8,143万円ほど繰入しており、後年度においては、投資的経費が増加していることにより、1億円前後で推移すると想定しています。旧簡水地区の敷設替え分の繰入はすでに行っており今後も行います。</p> <p>料金回収率は、給水に係る費用がどの程度給水収益で賄えているかを表した指標であり、料金水準等を客観的に評価する目的で経営戦略に載せています。</p>									
9	<p>「有収率」について、この数値をどうするかが経営計画、投資計画の基本だと思っていますが、その率の前提になっている無効水量(漏水)対策についての記載が計画に散見している状況だと思います。重要な数値であるということであれば、次の点で整理が必要だと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>11ページ 漏水事故発生件数 無効水量も記載し、課題を明確にすべきかと思えます。</p> <p>22ページ 漏水が頻発するとされる硬質塩化ビニル管・鋼管φ75～φ150までの16,800mの敷設替えによる有効率の向上を図るとされていますが、平成30年2月</p>	<p>11ページに無効水量のグラフを掲載します。</p> <p>投資計画の敷設替えの延長は、今回の改定が計画期間内の見直しであり、当初の計画に対する評価の観点が必要との判断から変更していません。</p> <p>4年間の敷設替えの実績と今後の予定は次のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="847 1675 1369 2011"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>H30～R3 実績</th> <th>R4～R9 予定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配水施設改良事業</td> <td>3,306.7m</td> <td>15,354.9m</td> </tr> <tr> <td>士別旧簡易地区水道施設整</td> <td>0.0m</td> <td>120.0m</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	H30～R3 実績	R4～R9 予定	配水施設改良事業	3,306.7m	15,354.9m	士別旧簡易地区水道施設整	0.0m	120.0m
事業名	H30～R3 実績	R4～R9 予定									
配水施設改良事業	3,306.7m	15,354.9m									
士別旧簡易地区水道施設整	0.0m	120.0m									

<p>計画当初も 16,800mとの記載、4年間の敷設替え実績は（23 ページの土別旧簡水地区・朝日地区も同様）</p> <p>24・25 ページ 上記に関連して、投資計画では事業費での記載がありますが、実績と今後の計画について敷設替え管路延長との関連も教えてください。</p> <p>26 ページ グラフ内の給水原価について、令和6～9年度まで増加していますが、28 ページの財政計画では料金収入の令和6年度をピークに減少しています。有収率の目標値は微増ですが毎年増加見込みでしょうか。</p>	備事業		
	朝日地区 水道施設 整備事業	689.1m	60.0m
<p>資材が高騰していることに加え起債発行額を抑制する方針としたことや、交付金の対象となる補助事業を優先して実施しているため、当初計画していた敷設替えの延長の実現は難しい状況です。漏水の状況を見極め、優先度の高い箇所から敷設替えを実施していくこととなります。</p> <p>給水原価は、経費の増加と有収水量の減少により増加する見込みです。</p> <p>料金収入は、給水人口の減少に伴い減少する見込みです。</p> <p>有収率は、耐用年数を経過する配水管が増加するので悪化が懸念されますが、漏水調査や検針時の異常水量の確認により、少しでも改善するよう取り組みます。有収率は、毎年増加するとは見込んでいません。</p>			